



增鹿

二公

1 曾 5
508
23



508
23



禮曰大夫燕食有膳無脯有脯無膳士

不_レ戴_二義_一戴_二云云

大夫の禄重きを尋常は兩備一食は
況や庶人とか古への人其質朴なり是
と見て知るべし後世我の朝夕羹戴の戴
何のこゝろは滋味と嗜で教棍の饌と用
ゆれとあるは忌憚るものなり
殊に今暴富の人家食と美しして器皿とけ

ニワカクサン

くし衣と新タにして紋形と巧カクますれと
るの鳴呼ア恐オソるるらんやれ身ミに一縷ス
と披ヒ三食サンシキと食クハ毎ツキに織婦オリメの勞ラウ農家の
苦クルシと思念シメンせうらんやこまとりすれ
自肆オシエあり者ハ終ツイに地の毀唾クハダと受ウケらるは
身ミ大オホなりハ身ミとしホに到イれと思オモとい
ざらんどんや

鳳皇ホウオウ生ナ而有リ仁義ニギヤ之意ノイ虎狼コウロウ生ナ而有リ貪戾コンリ
之心ノココロ兩者ニハ不レ等ト以テ其ノ嗚呼オホ戒ミ之ヲ哉ナ
礼レ太戴トウタイ

こし男女婚コン礼レとハつハくハ其ノ始ハジと慎シむ
づきハりハ今世イマヨ也ナは迷マヨひてハ奸婦カンフと納ウケむ
媼オウ乱ランの中ノより子コとハすハずハ何ニぞ其ノ子コ好ヨクむハこハより
つハかハでハ子コとハ責ツクりハ痛イタくハとハなハるハ

○或レ人ノ云フ今ノ俗ノ貴クとハくハ賤セとハくハ節分セツブンの夜ノ妙ミウと
撒マキて祝イハむハ所ノより除夜ジュヤにハすハりハこハし
追ツイ儼ゲンより起ツクまりハ中世チュウジの詩ノをハとハ見ミ下シとハ云フ

御音一馬

マゆだら也

ヤヤ冠

とひるぎ也

悶音

我國よ云こせ
頭中の類也

一夥反人

ひとしれの
悪黨なり

此類よく知るきりも鳴呼太平の代ハ山盜海賊

の徑と剪て人と殺し一財と奪つ忍意ありと

とどをぶく

存平の破落戸

賭博に集り酒色よ

すきと舞ふ於不好輩等こゆのといとありて人

と誰しと物と取て或ハ旅人と殺して財と奪ふ

類道路過客の害往々きこゆる今年九月勢列

標本の高客東都に下路路素名辺より喘子は

きこひ名古府と通し内津近所を破りける者

旅客の包と盗んで踊りまゝぬ 全数十五旅人

追え大草山のゆりまゝ民家近き所に其盗人

と欲殺して荷物と取て一は

其古郷(吉ヤ)親族あり 又曰く比豫列西條の

謝して旅客こころ改めし 高客と喘子等路よりけり

彼、高くと切殺し一具荷物と奪へり

二人の内一人ハサ 疵と蒙りて不死

故、領家よりあつたづみ道ゆぐり、
弊列邊より賊に於出沒して旅人を悩むや
一、海驛の者、ここをば禁する事と不得し
ことと正せば必りしむがごとく、
せり、人領家の有司、
緑林白浪のときれ、戦國のよきを治せよ、
を道路に、
其列の宰のときれ、

○ 証列 葛川の嶽ハ叡山の別院 ひきの山の奥の院と云 相應 和高の

同基、観音不動毘沙門の三聖像と彫して
安置せり

こゝに瀧のり、和高行法の時飛泉の上より、
炎落り、
此、不動の感得、
こゝに 靈驗今も亦、
とく、

山門 山佐の行者六月會、十月會に入峯す、靈所

也 叡山（北の方 十里計の道程也） 前行一百日無言（一）て叡山の

諸堂靈所と毎日廻（二）て拜（三）す（四）此地は淨鬼

峯（五）して七日断食（六）して行（七）と満（八）ず此地は淨鬼

淨満（九）して民（十）有り和別大峯の前鬼後鬼（十一）

如（十二）く入峯の修験と導（十三）と（十四）

ふれ（十五）と霜（十六）と星移（十七）と大堂（十八）漸（十九）破壊（二十）せん

此年（二十一）丁酉善光寺大勸進職（二十二） 同善院（二十三） 慶雲僧都（二十四） 金と施（二十五）して

後堂と堂修（二十六）せ（二十七） 同善院（二十八） 前（二十九）に百金と入（三十）て山門の

平信長公山門と滅（三十一）せし時（三十二）の（三十三）

大小の本尊多（三十四）し此地（三十五）に有（三十六）て山中（三十七）より残（三十八）りし

其時中堂の茅師（三十九）如来（四十）も焼（四十一）けし（四十二）

と傳教大師（四十三）預（四十四）末世（四十五）の異変と鑑（四十六）し

江州の内七所（四十七）より（四十八）と（四十九）て今（五十）に（五十一）

移（五十二）ひ（五十三）て（五十四）その内（五十五）と（五十六）て今（五十七）に（五十八）

（五十九） 東都（六十） 瑠璃殿（六十一）

の（六十二）中（六十三）に（六十四）移（六十五）され（六十六）し也西堂（六十七）の釈迦（六十八）の（六十九）

八瀬（七十）の辻堂（七十一）より（七十二）と山門（七十三）再興（七十四）

秀吉公の時御殿座と云云 長二尺余 江列に之を
立像と云々

四明の末寺多し今と伽藍所々に残すは約り也

之に大しき荒廢は及びし寺ありありと台宗

の僧詔り又西塔の灌頂久しく終りしと

此冬再興さるる門下へ廻文ありしと也

○古跡とありしきおよそを述べれそ興廢皆因縁あり

尾張國分寺 中嶋郡矢合 荻園 ありし城南元興寺

を道場法師 誕生の地 ありて南都の元興寺とす

建ししころのうらとを類ありし伽藍ありしと久しく荒

蕪し寺号のし所は呼ばれ古瓦乱て此邊に碎け

のころし丈六の如來面 茶師なりし 觀音漸首朽し

まゝあり草堂に在りしとけりせそそくをいへ

幾年を過ゆしにて西の冬香譽上人 建中寺 其絶
前住

とらと再び興して元興寺の別と新よせんると

公府は落し造寺の志ゆるいとくめごと

享保三年戊戌三月十一日所請のてし再興せしむるに申
公命は成し終日十三日香上人狀とみて余にあし成るる

○ 仲冬初二愛智郡末本村に遊び里北城山に登

城墟東西百間余南北七八十間二重堀

十、天文年中織田備後守平信秀築て同郡古

渡比城より移し住せしし初中寫郡門石庄勝

幡に起り享禄中名護屋の城以奪ひ天文十五年信長生る

又古渡に居し此山にそそ卒せしる常時成と

震ひて今川家と戦ひ坂大に駿共と破り

屋濃呂に向て斎藤氏と戦ひ終に山城入道道三

と以て信長に嫁せしむ故に兩回元事ありし天文

十八年三月三日四十二にして下せしる家督信長

介上総紹で武成すく盛りし名古屋城此山の城は

舎方武藏守信行初勳とて居しし信長中嶋

の清須城新波家に移て後弘治林佐渡守柴田後備

等名勝家れ家臣信行と奉しし主しし信長と

殺しし謀る故戦闘に及し美作守殺しし柴田

敗走す信行難髪して謝罪せしし

次の年弘治三年正月 信行終に請須城に一て害せしむ

しりば末盡ハ城主あつて廢蕪せしむ今年十面に至る

城シロノキ池スエト壇ノのこし首語とありぬ古井ニ三所嗚呼今猶あり

氣焰星斗と摩りしも空キしく荒草比霜シとか

さつてこぬをれあされとく法フ行あつさぬす

づて青山白髪ウラミの恨ウラミと登トり足ツれと感カりつて一絶

成吟イと

劫名キヤク為キヤク昨槐安夢 瑟瑟セツ山風不拂フ悲ヒ

提叙テシ據コ轉ク何在コト 只ただ看み老樹キナ落紅クハ飛ト

彌山ミヤマ此ココ凡葉マン動ウ餘哀ヨ里亭リテイに休やすひ南北ナンホク方カタ桃巖トウガン禪寺ゼンジに今

いしハ里ハにナラびタテ建タテ一ヒト以ヨリ近チカく比渡ヒワタリ也家某山地と

寄ヨて寺テと丘上ヒノカミに移ウツす寺東北山テに某師ミナシ臺ダイあり

桃巖道見トウガンミチミ 信秀 松岳道悦マツタケミチエツ 信行 の牌子ハタシ旧キウ也ナリのコレもアリ

これし雪岑ユキシラ秀顯ヒデノリハ柴田勝家シノベノリ此法名ココノホウナとる此寺ココノテは

伏翁フツウ俊和トシノリ尚用ナラ相アく嵐雲ランウン乱ミれて改カ變ヘ多く木キのミ

今イマ埋ウツで函ツツ徑ミチヤハびハ

冬よりこれ野の鷹スギおにじつさうふん其声だにこれし
乱山カれすじさしきれ中に木曾乃とさうたうき
こえてあふぐとさ一イタおはる富士れ根に似たり
越この白シラ山ヤマもろくにんて眼すさす一南海々
日にうつらひて船の帆ホけきれあふぬらと
詠カのすくもつたうととど山と下れ池水
あみとけこあしもせしとるも意あは
しうもけうのしめゆらん水とあぬ池のすたあ
なとほくやうてくうゆりし

○ 先学詰 東都師部良頭
元禄十三年の記

ぐのしむ俗語に述べ一其二三

△藝の有る者ハ不シ仕ス合セあり丹末ハ孔子と師にそつても
己コが藝ビに自滿チれ氣ありて今時の輩とや或ハ
私ハひん々事に数年チ骨ホネとれうすしとみぞ
しよハそれガまに自滿チうらうら
ハしとハ学問とせぬし何ナニとしてハ大事チあハ

と云ハ此の如く出家が装束改めらるる魚鳥
食つとくひし云々なるもの殺生れりし事
るは更にれらるるにやこれ出處進退も学文
世縁ばかりひるひりしものあり大にあら
ぞり云

佛者が此世ハ假れ宿して土藏と立とくハ
かゝる類多しにハ藝とくして利取貪り名と求
る者甚心しづりつゝぬハ又自家儒者には

あつて恐るるハ無道の至りと云
世に佛れ道に依る人多れど實に世に
穢土と厭離する者少くともすれぬは
土藏作れば後世願ひく多しなり

○和漢問答ハ重垣翁が筆あり神通やとて近比より
をよりそりそび字びゆりし事以述(たり)
其中にりらうしれりし事とて

回籠ハ其國れ治りし始より自然と神聖の

徳と以て其別をみるはゆるくさはずされ

其時^{トキ}に帝^{ミカド}の心^{ココロ}に固^{カタ}く成^{ナリ}て

りし^リる^ルは是^{コト}固^{カタ}く成^{ナリ}て

帝王^{テイワウ}一姓^{イツセイ}の正脈^{テイマク}にて治^チる^ルは

又堯舜^{ユウジュン}此^{コト}讓位^{ニヤウイ}湯武^{トウブ}の放伐^{ホウバツ}を

に云^{イハ}ひ^ハる^ルは且^ツり^ラる^ルは人^{ヒト}の心^{ココロ}を

身^ミ乃^ノ歎^{タガ}ふ^ルは其^{コト}策^{セキ}を以^モて又^{マタ}も

て^テと^トあり^ル事^{コト}も^モゆる^ルは陳^{チン}文^{ブン}子^シ如^ニて

に君^{キミ}成^{ナリ}る^ルは他^タと^ト異^ヒなり^ルて他^タ回^{クワ}に

と^ト清^{キヨ}く^クし^シる^ルは遠^{エン}伯^{ハク}玉^{ギョク}も傍^{ホウ}輩^{タイ}に

と^ト謀^{マカ}る^ルは知^チぬ^ル顔^{ガン}して其^{コト}場^バ

と^ト去^サる^ルは君子^{クニシ}ある^ルは曾^{ソウ}子^シ武^ブ城^{セイ}

此^{コト}大^{ダイ}夫^フを^ヲり^テにあり^ルは所^{トコロ}寇^{クウ}盜^{トウ}の

去^サる^ルも聖^{セイ}賢^{ケン}の^ヲり^テと^トれ^ルは皆^{みな}非^ヒ也^{なり}

と^ト云^{イハ}ふ^ルは其^{コト}固^{カタ}く成^{ナリ}ての^ノも^モ等^{トウ}云^{イハ}ふ^ル

し^シに^ニも^モう^ウげ^ゲある^ル氣^キ象^{ゾウ}も^モ是^{コト}に^ニあ^アら^ラる^ル

○或人云元の字ハ無此畧字あるやうにやひひに
周易にかゝるて必元此字と用て無の字あるハ
如何ありゆにやと云無ハ古ハの無の字にて
藩籒と連續す有無の無ハありて元の字あり
と音同ド此故秦の代より籒と以て元と作せし
秦此李斯が隸書に林改変して四點と改めし
免て無の字改作れどことハ諸の聖經ハ秦火に
焚後復ちりて改書する者改字の無と用ひし

惟易の之焚列に在るべし若れし元の字
と書傳へばるる字書に見し此字の多前にるるも後じや
是れハ人の同もはるに筆す
○或人云諱土宗にハ牧起請と云ありて聞何なる云四光
大師の一牧起請に聖光上人相傳れ一と添らじし
後記主禪師鎌倉光明寺
岡山文永六年八月廿九日の誓詞良曉
師の正和二年二月十五日の誓言定惠師の康永二年八月
廿三日の誓言良順師の應永十年五月廿六日の誓言順
譽師の永享五年十一月三日の誓言常譽師此庸正

二年二月五日の誓詞以稱して八師相傳の法文と
 云是佐介カサケ光明寺ミョウミョウジ一流正流の相兼にして元祖此教
 戒に違ぶるをくしと東常縁入道此相傳と受
 て後よめり

たれもあつてもふ此の字とほつてまの程は
 ちれ

○我國官家神事の冠はゆ子の前につけ給ふ前

糸イト或ハ青糸アヲイトの組緒クミオ左右サダヨウ十助ジュウスケ日蔭蔓ヒカゲカヅラと云ふれ神代卷に

新ニホ謂イハレ蘿ラ比ヒ所カ礙ケ右語拾遺に蘿蔓ラカヅと比可氣ヒカケと讀ヨミ也古代

月俗にしく神々の冠になす

ひくをかつくハ一名下苔サカリコケ又ハ山海松ヤマウミマツ云

蔓草マンクサにして清キヨ山蔭ヤマカゲよ生ナじく可キ

蔓草マンクサ之圖にセーが如しれと蘿ラの字

とつてはむぐくこと訓ツケでるにや

び、ほくハ四時葉青アヲキ一駿河回つ

れ細道ホソミチにありて久しく奇キにもよめり我ガ

熱田ネツタの祝師イハヒ尾張氏オウヱノウヂれ門カドよ二月二日ニハツニニチをゆるハこの



目メカゲノ
 蔓マンカヅ
 蘿ラカヅ
 蔓マンカヅ

山ヤマより生ナれり
 下サカりて
 久キウしく青アヲし
 終ハツにマり

了りありさしごとく松風蘿月といふ蘿は秋紅葉此
ほをれれくうへー梅下りに蘿ハ字書に裁こ
しもしりへ又女蘿ハ兔絲此すといふは釈文に木に
在りと女蘿ハ爲草に在り以兔絲とすをどけり
にや又蔕蘿香も一草といふ説あり蔕蘿蔕蘿
をどけりつと皆蔓連しと草なればつるを惣
名にやされど大根以蘿蔕といふはほかに一と
かぢりぬやに覚へゆる知る人よけぶ

好事に語れ

○ 以冬丁酉東都民地に諸家此地家あり其惣がひと取

い〜之を由令せり
侍臣及び商家寺僧の
地地等と同じくゆ 御鷹狩以障

且は無益の家作也ゆへ故しごとくこれハ太平此時ハ人々
本宅の外下やりにるを賜りて土木に費す首に信せり
に又私に農民乃地以買家作りて或は妾以置或ハ
水石以巧よし〜遊所如く是家とすら方多し
か〜れハ無益の作り世の費といふ〜めゆ〜す

くろ能あり神れ忘らうしんゆふにありす故に
習合家奉祀祠香と薦まじりてすす海に

金光明經此辨天品此諸天日の中に麝香係り
されハ佛前ニ焚ハハゆりて故にや甲

香も亦佛前に忘れらば此物に
知光謙上人冬日昂與之韻

吟我一声鶴 覺來寒夢晴
回頭遙山嶺雪 眼霽白雲平

和竹龍王之韻
疎竹有聲孤枕靜 破窓鐘斷夢回晨

朔風凍冽發梅去 結凍更知時序頻
或人問勅會御供養等の時貫首參堂此行列

ぐの名目ありと如何云ふれ其畧
東都瑠璃殿供養此
時行列

以云に
所守 俗 鑑取 俗 專當 僧 綱掌 僧 檢非違使 官人

前ミナ駈ケ坊ボウ官クワンしあり 三ミ綱ツナ 大法師律師等

從儀師 十シウ弟子トシ 如意座具 貫クワン首シュ 執シツ綱ツナ 殿テン上人ジン 執シツ蓋カシ 殿テン上人ジン 草クサ鞋セウ

上ウラハ童子コ 曰イハレ 曰イハレ 大オホ童子コ 曰イハレ 大オホ童子コ 長チカ 御ミコト後ノチ官クワン人ジン 僧ソウ

力チカラ者モノ 曰イハレ 色シキ從ユク官クワン僧ソウ 大オホ衆シュウ群グン行ユク 或アルハ官クワン人ジンの後ノチ殿テン也ナリ 曰イハレ 曰イハレ

石台家密家大既亦如此淨家ハ大キに同ナリ一ヒト々ツツ十ジュウ異イあり

知恩院吉水大師五百年御忌 勅會チクエ此コノ次ツギ予カミと以モトて見ミる

前カミに記シセ一ヒト故コト 曰イハレ 曰イハレ

○成ナリ同ナリ密家宗ミツカ子コ十二天の次座如何云左右に分ワケ時一

二等あり

一ヒト地チ天テン 二ニ月ツキ天テン 三サン多タ門モン天テン 四シ火ヒ天テン 五イ帝テイ釈シヤク天テン 六ロク熾シ摩マ天テン

本尊ホンソン左サ 三サン伊イ舎シャ那ナ天テン 本尊ホンソン右ウチ 四シ多タ門モン天テン 四シ風フウ天テン 二ニ日ニチ天テン 五イ水スイ天テン 一ヒト梵バン天テン 六ロク羅ラ刹シャク天テン

此時多分ハ四臂不動明王と本尊とすハ然シカ但シカ一ヒト五大

尊等又ハ一兩界曼荼羅等ハ本尊とすハ然シカ但シカ一ヒト五大

密傳と得エられ知チるコト不能シ者モノ 然シカ總ソウて密家壇

上ウラハのミ甚シ秘ヒあり 他宗タ比ヒ知チるコト 諸シヨ所シヨ也ナリ

○ 神皇月の子孫美濃國に行て歸し人語ら武公

大矢田ヤタの天王よまじりし山ふく岩尾ふあす松

まじりて神さびしる社あり樓門に下馬此牌フダあり

門の柱に打付てあり僧二院侍分大門凡そ十八町にして六町ハ

松多くありび六町ハ振木立いと叫りたり又六町ハ

楓樹多ありて紅葉にさざりてしむく目を

あやまり木の大きニ團むりあり多く夕日にうらみ人

の面あり見ゆ大矢田ツツ此れもちとて國にさざり

者なしけ木ハ後醍醐院勅してくさせ給ひ

と所よハ云はしるも後ハさぞあはれ葉らた

ふ東都れしに河さし遊人ひさもたす

侍らんはひあし各にらちをくも人目

まじりてさびしれ秋れしそありりり

しんまぢふも都遠き所に中く景色の

勝地間く多うらう後地秋すくしむれ

ゆづりにしそ又其御柱ハ式内外此官社にりや

あつるもとふかき三途にひき落しに
 まうくはるるありきうもくもく
 明くし年にもうきうもくもく
 法師に返し候云取意畧文

嗚呼賢あり哉此老婆くくで僧都も浮世以
 厭しきもすくはに欣淨此念ありして往生
 要集と述し自他と利益しはすくも季世
 の僧法師権門勢家に自近き論ひて名と

求め利以貪る者此老尼は筆の跡と見いり
 面に汗をさすくあつるんやうれい熱の
 心なりんは畜獸いもとくう侍ん僧都
 しもよう名利は人ありず只至孝は志あり
 とくは家物とくははれあれすに返し
 云為ありとる

今世日蓮黨のくして貴家は祈禱に欺る

汝居^カ予^ニ人^ノ事^トあり^シも是^レ君^ニ地^ノ何^レぞ安
 逸^トと^シて^シむ^ナり^シく^ニ遊^ム異^ニ比^ト場^トと^セし^ヤ也^ト
 移^リり^シら^ニに^テ諫^ムられ^シも^ニ回^トと^保ち^テ我^レあり
 顔^ホあり^シし^テ大^ノ家^トも^亦跡^ヲあ^クあ^リ行^クけ^ハ又^ハ某^ノ領^ト
 ろ^クて^ハ我^ガ物^トと^シて^ハと^クと^シに^テ世^ト此^レあり^シも
 他^ノの^もあ^リし^テ侍^リ類^ト天下^トも^亦曰^クト^シ周^ト秦^ト
 漢^ニ改^メ三^回も^亦一^統と^シて^ハ又^ハ此^レあり^シも
 我^ガ回^平家^ノの^驕秦^源氏^ノの^威武^北余^數代^ノの^榮も
 足^利將^軍に^テは^テ織^田羽^柴の^法に^テ起^ルる^まで
 此^レも^子孫^々と^シて^ハ富^且貴^き者^{あり}し^や
 猶^一世^ノ夢^幻れ^シく^ニあ^りし^もと^シて^ハ又^ハ此^レあり^シも
 あ^りし^もに^テあ^りし^もと^シて^ハ又^ハ此^レあり^シも
 あ^りし^もと^シて^ハ又^ハ此^レあり^シも
 半^夜鐘^声に^テと^シて^ハ又^ハ此^レあり^シも
 つ^きま^りし^もと^シて^ハ又^ハ此^レあり^シも

○前侍講禪蓮社良照圓觀義山
享保二十百十月十三日七十歳ニシテ化實ニ蓮門ノ
 白眉ノ云ナラズ天下具学ヲシラカレ者ナシ

○ 陽月十二日 省早梅花

田山隱々曙雲開 古苑慘々落葉堆

獨覺暗香有餘味 歲寒雪程一枝梅

○ 三まゝし者親此極とさし梅さる里より

いしーて年ごー花さくしゆかしこく愛せ

く赤の冬いしーしゆさして紅れあひあめ

と月もにもあられまらうて花にも潤とさし

りー 十一月十五日

いしや音に似たるもあつしたるは乃ち枝は

去年の冬薬山に海脈靈源禪師清府下れ護回林

いれし千果和向のあうりしうは行て相見

白梅花と折つてまじりてさし六年にさう微笑して

知字相師西来意と示さししうハ初無心事占春魁

て并せししとせ此夢とさう禪師もこころ

の文月サツキ順寂せり未秋悦峯和尚附法旭如師清南京僧

万福禪寺音院のり 岡東北命竹りしり

かゝる浮世のすじゝみにくれとくごらんとゆきて

のしほ^ヒひあきさ此法千巻うゝそぞめはよほせに

○ 過^キ一冬武藏國より人あめぼりゆぐりゝるまど

ありひほくはし東行の人ゝほの山あり

短しはて

夕あしこもぬとひあきておまうさあつたは細き

とりひとこそゆかりもあわれにまのけうす

りは去^{コト}年其山びこと過^キ一もえい書^{カキ}て

夕あけはは旅れうもぬほの山道くつなぐはに

○ 明遍僧都の念佛者十^シ樂^{ラク} 往生 要集 おほえぶらん^シ花下

るもせとほばれいどい古一の西方と暮^{シメ}ゆ人

うとと誦習せぶらハれりしおや今れそハワきん

知^レる者も希^シありしに近^{コソ}者玄律法師^ニ人^ハ十^シ樂^{ラク}和讃

と述^ス一御^ミ溪^カの上人^ニ激^シ跋^ツつら梓^ハに鏤^チて摺^セ子^シは

展^ヒ轉^ジ歌詠^セしむしれい想^シと安^ニ養^ヒよ送^リる人

又^タ夕^ホり或^レ人^ハすしめく十^シ樂^{ラク}れう^シ四季^ニて讀^ミ

男カ女メ狂ク一ツるグてシ〜 毎日数万人参宮せし〜
神人カキ大キに利と得〜 其冬山田大火と〜 近年
太々カケラ神カホラとして高家農民數十金以師職家入れ
て非礼の禱トウシ祠シと成〜 竹タケりタケりタケ多シ都ト鄙ビ盛シあり
今イマ〜 春ハル〜 秋アキに至りて 外宮の太々神樂六
百餘度幣ヘイ金キン凡ソ二ニ万マン金キンに余マれマ〜 師職
等ナラ〜 敬神如在カ此禮レとコ心ココロを專シ利リ細コと
長ナガりナて欲悔コトと徳トクと財貨サイカと欺アガりアりアて驕キョウ泰タイの
備イハふフれレとイロ津ツ坊ボウに捨スてテ酒色シウシキにイ〜 たりタらレぬ
此屋コノ大オホ概カひヒ〜 非道ヒトコトのノ筆ヒツ宣ノ天災
とカ蒙モウ〜 せシりリ〜 せシりリ〜 せシりリ〜

○ 貞室内主紀氏平天忌之辰上月ツキ慶讚九品受茶一鋪用
題シ三サン部ブ妙ミョウ典テン一イツ部ブ就シユ墓ボ所シヨ建ケン五ゴ輪リン塔トウ將シヤウ莊シヤウ金キン堂ドウ以リ作シ銘メイ
筆ヒツ此コノ曰イハフ

葉ハ冬トウ貝カイ葉ハ 傳デン同ドウ曼マン華カ
滿マン天テン雪セツ白ハク 潔ケツ發ハツ金キン以リ肥ヒ

塚とくさそそありひつぐきゆりし長歌

秋ぶしれ 別れに せまり さもふとどく

あつこぶ りぬ波に 袖ぬれて しく夜千鳥の

音さしく 日暮るる 夕まよ ちかづくせと

しんらぬき 光あはしく 西のそと かつたけれ

とんりあり 泪れ流るゝ いいけし 衣もさうせ

おとぶに あらそいより まよひし あめあまう

花のえに つとそめて うらみ今たづねはせ

ただあは 昔れをまね ながしは ちかづくせ

あつ川のせせとむの らあして のりそせ

さうあへ くれあははに まよひすてはせ

ちかづくのせせたらぬに まよひすてはせ

○ 陽廟の御歌とほふまつりし危れくねそめりり 信阿

あましゆのゆり中に

日光山にて

なほはく御成のたのまねての日の光つて

高

はらちを時毎にひまにあらわしてあふぞいづる神のまはら

東に^{アサ}り^マせ^マし^マは^マす^マ時

法見^{ホウミ}じ^シ波^ハで^デ雲^{クモ}の^ノこ^コは^ハ縁^ヰね^ニい^イし^シの^ノ名^ナの^ノこ^コは^ハ一^ト

一^ト夜^ヨあ^アり^リ宿^{ヤク}の^ノつ^ツも^モも^モ早^{ハヤ}と^ト眠^ネん^ンを^ヲ旅^ツる^ルあ^アの^ノま^マは^ハ

浮^ウれ^レた^タあ^アに^ニつ^ツも^モも^モ武^ブ野^ノや^ヤ尾^ビ花^ハが^ガす^スめ^メの^ノあ^アは^ハ白^{シロ}き^キ

春の所歌の中に

長^{ナガ}宗^{ムネ}と^トい^イひ^ヒに^ニ似^ニし^シる^ル春^{ハル}も^モま^マ霞^{カスミ}も^モ同^{トウ}し^シに^ニま^マは^ハる^ル

老後の花

老^{オウ}れ^レが^ガ花^ハの^ノあ^アき^キは^ハそ^ソも^モ色^{イロ}ぬ^ヌが^ガは^ハと^トう^ウて^テふ^フす^スく^クと^トま^マ

木曾^{キゾノ}裕^{ユク}よ^ヨく

あ^アら^ラう^ウも^モと^トも^モい^イさ^サや^ヤ白^{シロ}雲^{クモ}に^ニ的^{テキ}め^メら^ラし^シに^ニま^マ曾^{ソノ}れ^レは^ハ花^ハ

し^シ日^ヒ教^{キョウ}を^ヲあ^アの^ノあ^アら^ラふ^フね^ネ神^{カミ}の^ノま^マは^ハ花^ハの^ノあ^アき^キの^ノ床^{トコ}の^ノね^ネ風^{カゼ}

还懐

ふ^フれ^レを^ヲそ^ソの^ノあ^アら^ラに^ニあ^アり^リた^タと^トあ^アら^ラふ^フは^ハし^シも^モ花^ハの^ノあ^アき^キの^ノま^マは^ハ

民家^{ミンカ}の^ノあ^アら^ラ

觀佛三昧經に説に大蒜ハ九十日肉食ハ七十日魚肉ハ
三十日飲酒ハ七日女人ト交ハ三日雜五辛食ハ九十日
云善集經にハ食鳥者五十日ト見シ

是俗家別時修善の際或ハ臨終に誡也出家ハ一向

五辛酒肉平生の戒也然りに今の僧法師五辛以

食茹一酒一醜一ト忌憚一ト以ハ風俗可憎

可憐其肉味と嗜ミ女人に交るハ云に是クハ

可憐其肉味と嗜ミ女人に交るハ云に是クハ

曰楞伽經に稱ずるに凡そ鬼神ハ惡臭と聞て其處

に尋テ一ト一ト隙と伺ヒ短と求る故に甚大

れと忌とすことバ名香の縁に依り聖衆諸天も

來儀一ト一ト由すり汰と一ト香臭に縁トて

邪神鬼類交乱セし事疑一ト之ト一ト狝巖に所

謂五辛の臭穢と食者ハ天仙遠離一餓鬼

其唇と舌と常に出鬼と樂に住セハ福德日消て長

利益なく久一

○ 孔穎達曰古人不騎馬故經典不見至趙武靈王騎射以
教百姓云古者馬以駕車不單騎至六國始單騎云拜

録下

陽秋即春秋避晉諱故云

孔子無鬚孔叢子云今像多鬚誤

絆縶婦人有汗也絆愛期事也

影四附庸也

人曰尋丈六尺曰常云

緇錢緇絲也以貫錢錢一百曰一緇一緇と錢一貫の字に用ゝハ非也

三代兩漢用馬車魏晉至梁陳用牛車

我國牛車の製ハ魏以下のりり人の子ハ訓

にあり

數三百三十三槌と爲一通鼓鐘の聲と一通と心得るハ誤也

龍鐘竹名年老者如竹枝葉搖曳不自禁持

類多ト今其ニと抄してハに記す

○ 杜荀鶴詩云百歲有涯頭上雪萬般無係耳邊風

おにぬくのまゝに耳辺に陳め尻に如くせば
あど心にもよく怒もふれぬらんや

○ 三冬季に迫り人間にぞくくけり

寒夜客あり云々此祝允明が語怪に濟瀆祠を

神靈驗いらすと云く貧者よ金を貸し

しぬすともやされば其祠の前に大池あり

人金以假んと欲すよば先神前に禱て玃決

し神すよば許せば契券と書て池中に

投るに忽ちとまれ沈めや、ちりてのぞに

数ほど金と貸し出す貸者符しとされば

持去るく約せし期にあつて子本と具し

往て神に謝しあよば池に投すればやぐ

前に沈し券と貸め返すしとてかゝる社も

あきしして爰に我が國のくくす

人々毎日市めごとく鳥集して神に論ひ金

りぬしにいうる神とめりてあつひぬひ

らん又ハ歎^{アハキ}き假^カすま^マして其^{ソノ}債^{ツクシ}とれ^レころ
ゆる者^{モノ}も多^{オホ}くらんそ^{トモ}昔^{ムカシ}に河^{カハ}可^カせ^セ一^{ヒト}鳴^ナ呼^コ
今世^{イマノヨ}富^{トク}けり^キとひ^ヒるとて^ト辨^{ワカ}天^{アメ}と奈^ナ世^ヨ稻^{イナ}荷^カ
と祈^{イノ}る者^{モノ}う^ウか^カし^シこ^コに多^{オホ}く^ク是^{コノ}中^{ナカ}世^{ノヨ}以^{ヨリ}來^キ此^{コノ}
陀^ダ祇^ギ尼^ニの邪^{ジャ}法^{ホウ}と傳^{ツタ}へて^テ執^{シツ}事^ジある^ルこと^ト
侍^{サマ}り^シと互^{タチ}河^{カハ}に餘^{ヨリ}流^リ今^{イマ}も絶^タせ^セど人^{ヒト}と邪^{ジャ}路^ロに
惑^{マド}ハ^ハ一^{ヒト}復^マさ^サし^シとあ^アら^ラし^シとあ^アら^ラし^シと
りても道^{ミチ}士^シの邪^{ジャ}術^{ジュツ}さ^サぬ^ヌありと見^ミたり

語怪ハ我^ガ回^カの物^{モノ}詔^{ミコトノリ}の体^{タマ}に如^ト一^{ヒト}奇^キ怪^{クワイ}の事^{コト}九
多^{オホ}筆^{ヒツ}せ^セく^ク徠^{ライ}禎^{チン}卿^{ケイ}が異^イ林^{リン}方^{ホウ}鳳^{ホウ}が物^{モノ}異^イ者^{モノ}也^{ナリ}
再^{マタ}あ^アれ^レに^ニい^イと^ト

○ 臘^{ラツ}八^{ハチ}出^デ山^{サン}の聖^{セイ}容^{ヨウ}と并^{ナリ}して香^{カウ}のた^タて^テり^ル
凍^{コウ}髭^ヒ當^{トウ}年^{ネン}眼^{ガン}石^{シツ}座^ザ一^{ヒト}星^{セイ}拈^{ニエン}出^デ耀^{ヨウ}瑤^{ヨウ}臺^{タイ}
現^{ゲン}前^{ゼン}無^ム軌^キ飛^{トビ}龍^{リウ}化^カ廖^{リョウ}廓^{クワク}大^{ダイ}虛^{キョ}乍^{シカ}噴^{フン}雷^{ライ}
○ 昔^{ムカシ}日子^{ヒコ}玉^{タマ}食^{クハ}と見^ミて感^{カン}然^{ゼン}として日^ヒ弗^フ饒^{ニギハヤヒ}斯^シ可^カあ^アる^ルと錦^{キン}衣^イと
見^ミて類^{ルイ}然^{ゼン}として日^ヒ費^ヒ寒^{カン}斯^シ可^カあ^アる^ルと華^カ屋^{ウチ}と見^ミて秋^{アキ}然^{ゼン}として

Blank page with a light beige background, showing signs of wear and discoloration. A small metal fastener is visible near the top center. The left edge shows a striped pattern, likely from the book's binding.

三十一

Blank page with a light beige background, showing signs of wear and discoloration. The page is mostly empty, with some faint, illegible markings or ghosting of text visible.

